

吹奏楽ワークショップは、多様多彩なボランティアに支えられています。

おふたりは昨年につきずっと子どもたちを見守ってくれました。



原谷 裕三さん（化学メーカーOB）

原谷さんは本番まで7回全部の回に参加してくれました。

去年参加した男子生徒さんが、今年は違う楽器を持って嬉しそうに演奏する姿を見たり、リズムの取り方が上達し素敵な音楽になっていくのが感じられ、毎回楽しみながら参加しています。プロのアドバイスをメモするときは、音楽的な表現がきちんと生徒さんへ伝わるよう気をつけています。1回、3時間のボランティアが苦になったことは全くありません。



時には、生徒さんと一緒に練習に参加しながらボランティアを楽しみます。



平山 真人さん（時事通信社 OB）

平山さんご自身も地域で長く音楽活動をしているひとりです。

参加している中学生も色々。覚えが早い子、引っ込み思案な子なかなかうまくいかないときも...。そんな個性の集団が練習を重ねていくうちに溶け込んでいきます。同じ音楽を演奏している人間として、こうした子どもたちの姿がみられたことは嬉しい限りでした。それが音楽の力であると感じました。そして、学校関係者だけでなく、プロやNPO法人、地域住民が関与する新しい社会教育の形ができたことは素晴らしいと感じています。こうした活動が区内各地に広がっていくことを期待したいです。



音楽のチカラで
地域参加型の取り組みへ

杉並区合同バンドX
南相馬市立原町一中



出会いから交流

はじめの一步

杉並公会堂
Suginami Koukaidou



原町一中からは 1年生 5人
2年生 11人
3年生 16人
顧問で指揮の新井先生 33人が参加

- ・ マーチ「ブルースプリングス」
- ・ 空中都市「マチュピチュ」～隠された太陽神殿の謎
- ・ 映画「リトル・マーメイド」よりアンダー・ザ・シー
- ・ Dynamite 4曲を演奏してくれます。

途中、飛び入り参加で原町一中のOBOGでこの荻窪音楽祭に出演経験がある先輩が参加してくれます。

天沼中から原町一中の皆さんへポップリが贈られました。学校の校庭で夏からラベンダーを育てており、ボランティア部が心を込めて小袋に詰め作っているそうです。



リハから本番へと日程は慌ただしく、コロナ感染リスクもあり、以前のように賑やかに会話をしたり、多くの時間を共にすることは叶いません。今年は会話を交わすことができなくても、来年またこのステージに立つことができたら「やあ、元気だった?」「またいい演奏しようね」と声を掛け合う何かが、これからの2日間で生まれていくはず。短い時間でも一生の宝物になっていく瞬間があるのが吹奏楽の力かもしれません。

